



鹿部町立鹿部中学校	在籍生徒数88名
学校通信 第11号	1A 27名 ひまわり4名
電話 7-3114	2A 26名 ひまわり2名
令和8年2月27日発行	3A 35名 ひまわり2名

《重点教育目標》
「主体的に学び続け、自らの人生を舵取りする力」の育成
 スローガン 「一歩前へ」 ～ 考 動・共 生・創 造 ～

思春期に育てたい自己理解と自己価値観

校長 坂 本 学

三学期がスタートして、早いもので一ヶ月が経過しました。立春が過ぎ、日も少しずつ長くなってきて、春の到来が待ち遠しく感じられます。昨年も流行したインフルエンザが、今年は型を変えて再び流行しているようです。御家庭におかれましても、生徒の体調管理に十分御配慮くださいますようお願いいたします。

中学生にとって春は「進級の春」、そして「15歳の春～卒業と高校入試」の季節です。三年生は、まさに高校受験の真ただ中にあります。



.....
 昨年末に実施した教育活動アンケートでは、「将来の生き方や進路を考え、その実現のために努力している」「学習の大切さを理解し、毎日家庭学習に取り組んでいる」といった項目について、保護者の皆様からやや低い評価をいただきました。これを受けた学校の改善策は裏面に掲載しますが、ここでは、中学生という発達段階を踏まえながら、生徒のキャリア形成を進めていくうえでの家庭の役割について考えてみたいと思います。

長年にわたり北海道の教育界で御活躍され、函館新聞において子育てについてのコラムも執筆されていた小笠原愈先生の著書『子供が健やかに育つために』の一節を抜粋させていただきながら、共に考えてみたいと思います。

思春期に育てたい自己理解と自己価値観

中学一年・二年生ころは、子供たちが自分自身をどのように捉え、どのような価値を見出していくのかという点において極めて大切な時期です。小笠原先生は「**子供の良さを学業の結果だけで決めつけてしまわないこと**」や「**単一の価値で判断することの危うさ**」について述べています。子供の人格には、得意なことも不得意なことも含めた多様な側面があり、その一つ一つが、その子供ならではの大切な持ち味であるという指摘です。

私も恥ずかしながら、子育ての中で、テスト結果や日々の家庭学習の積み重ねばかりに目が向き否定的な言葉をかけてしまっていたことがあった

ように思います。
 子供は自分の持ち味を發揮し、それを周囲に認められる経験を通して、自信や安心感、充実感を育んでいきます。そして、そうした経験の積み重ねが、やがて苦手なことや避けたいことにも挑戦しようとする力に繋がっていきます。自己価値観とは「できる・できない」だけで測られるものではなく、「自分は自分であってよい」という確信の中で育まれるものと言えるでしょう。

中学校三年生から高校にかけては、自己理解を基盤として、「私はどのような存在なのか」をつかもうとする発達段階に入ります。小笠原先生は「自己理解とは、現実の自己と理想の自己との釣り合いを保ちながら、自分自身を理解している状態である」と述べています。現実の自己には、長所や得意なこと、向いていることといった肯定的な側面（canやmay）と、短所や不得手なこと、不向きなことといった否定的な側面（cannot）の両方が存在します。大切なのは、これらを優劣で判断するのではなく、具体的に知り、自分なりに受け止めた上で、程よい目標を設定し、努力していくことです。そのために家庭では、「できること」「できないこと」の両方を受け止める安心感が欠かせません。**親が子供と共に向き合い、程よい目標設定を後押ししていくことが重要**と考えます。

家庭は、子供が自分自身をありのままに見つめ「**自分は自分でよい**」と確信を育む場です。自己が自己たることに確信をもたせることこそ、家庭に果たしていただきたい重要な役割であると考えます。

子供たちが将来に向けて、自らの生き方や進路を考え、主体的にキャリアを形成していくためには、学校での学びとともに、家庭で育まれる自己理解と自己価値観が確かな土台となります。学校と家庭がそれぞれの役割を担い、『**こどもまんなか**』に据え、一人一人の持ち味を大切にしながら成長を支えていけるよう今後も一層連携を深めて参ります。

今後も本校の教育活動に対しまして深い御理解と御協力を賜りますようお願いいたします。

学校評価の結果をお知らせします

令和7年度本校で実施しました「学校評価（鹿部中の教育活動に関するアンケート）」の結果を掲載いたします。下記のQRコードでご確認ください。また、結果を受けて、評価が低かった項目につきましては、その結果を踏まえて、学校としての改善策を合わせて掲載しております。

令和7年度 鹿部中学校評価アンケート結果

右記のQRコードより→



<学校評価改善策>

◎家庭学習の充実について

家庭学習の習慣化を図るため、家庭学習ノートややり取り帳、課題への取組を通して指導して参りました。今回のアンケート結果からは、毎日の家庭学習が十分に定着していないということが明らかとなりました。今後は、生徒が主体的に家庭学習習慣の定着を呼びかけるなど、学習委員会の取組等を取り入れ、一層の定着を図って参りますのでご家庭においてもご協力をお願いいたします。

◎進路や生き方指導について

職場体験学習、「地域の先輩に学ぶ」学習、高校講話などの機会を通して、キャリア(社会で生き働く力を育てる)教育に取り組んで参りました。今回のアンケートの結果からは、将来の進路について考え、その実現に向けて努力する姿が十分に見られないということが明らかとなりました。今後は、キャリア教育の機会に保護者の皆様にも参観していただけるよう工夫し、キャリア形成(自分の仕事人生を主体的にデザインする)について話し合う環境を整備して参りますので、ご家庭においてもご協力をお願いいたします。

今年度最後の授業参観でした

1月30日（金）に今年度最後の授業参観が実施されました。1年生は美術、2年生は体育、3年生は音楽の授業をそれぞれ保護者の方々にご参観いただきました。当日は、50名程の保護者の皆様にご来校いただきました。1年生はお互いの意見を交えながら集中して作品づくりに取り組み、2年生は元気いっぱい身体を動かしボールを追いかけ、3年生は仲間とのハーモニーを大事に大きな声で合唱を歌っている姿が見られました。保護者の方々には生徒一人一人の成長が感じられたの



ではないでしょうか。お忙しい時期にもかかわらず、多くの皆様にご参観いただき、心より感謝申し上げます。今後とも、生徒さんの健やかな成長を温かく見守っていただければ幸いです。



未来きらきらプランについて

鹿部町では子育て世帯の保護者等の経済的負担を軽減する取り組みを行っています。この無償化の取組に、今年度どのくらいのお金が実際に使われたかをお知らせします。

- ◆見学旅行（2,655,264円）
3年生が3泊4日で東京方面へ行きました。
 - ◆柔道着・制服（2,079,792円）
1年生の制服と希望者の柔道着分です。
 - ◆宿泊研修（395,000円）
2年生が1泊2日で函館方面へ行きました。
 - ◆生徒手帳・進路用証明写真（102,000円）
生徒手帳と入試願書等に使用する写真分です。
 - ◆全道大会参加補助（216,786円）
小樽で開催されたバドミントンの全道大会分です。
 - ◆卒業記念品（427,000円）
記念品の卒業アルバムや証書ホルダー分です。
 - ◆ワーク・テスト等教材費（1,049,421円）
各教科で使用するワーク、美術や家庭科で使用する実技用品、実力テストを購入しました。
- 上記以外にも給食費やスポーツ振興センター掛金が無償化になっています。

無償化分教育振興費（2026.2.10現在）

